

高大接続改革を追う

昨年12月に中央教育審議会（中教審）から「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」（以下、答申）、今年1月に「高大接続改革実行プラン」が公表された。下村文部科学大臣の「大臣が代わっても政権が代わってもこの改革は変えない」という強い決意のもと大きな改革が進む予定だ。そこで、このコーナーでは、「高大接続システム改革会議」の動きを中心に、高大接続改革に関する動向をお届けする。なお、ここで取り上げている話題はその時点の情報であることにご留意いただきたい。

高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を一体的に改革

昨年12月の中教審答申では、大学入学者選抜について、現行の大学入試センター試験を廃止し、新たに2つのテストを導入すること、各大学における個別試験についても新テストのスタートを待たずに入学者選抜の改革を進めていくことが提言された。

この答申では、単に大学入試の改革にとどまらず、高等学校教育、大学教育およびそれらを接続する大学入学者選抜の抜本的な改革が必要であると述べている。中でも高等学校教育と大学教育を結ぶ接続段階での評価である大学入学者選抜が変わることで両者の教育の在り方

大きく転換するとし、大学入学者選抜の改革の必要性を挙げている。

その具体的な方策が、高等学校での教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるための「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入、現行の大学入試センター試験の廃止とこれに替わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下、仮称を省略）の導入<図表1>、各大学の個別の入学者選抜（以下、個別選抜）の改革である。個別選抜は、「学力三要素」^(注)を踏まえた多面的な選抜方法をとるものとし、具体的な選抜方法等に関する事項を各大学がアドミッション・ポリシーにおいて明確化するよう提言している。

そして、この改革の実現には、高校や大学における教

<図表1> 学力評価のための新たなテストのイメージ

名称	高等学校基礎学力テスト	大学入学希望者学力評価テスト
目的	高等学校段階の学習の達成度の把握	大学入学希望者について大学教育を受けるために必要な能力を把握
対象者	高校2・3年生	大学入学希望者
出題 教科・科目	思考力・判断力・表現力を評価する問題を含めるが、特に学力の基礎となる「知識・技能」の確実な習得を重視 実施当初は「国語総合」「数学Ⅰ」「世界史」「現代社会」「物理基礎」「コミュニケーション英語Ⅰ」などの高校の必修科目を想定（選択受検も可能） 高難度から低難度まで広範囲の難易度 英語等は民間の資格・検定試験も積極的に活用 各学校・受検者に対し、成績を段階で表示（各自の正答率も併せて表示）	「思考力・判断力・表現力等」を中心に評価（「知識・技能」は単独では評価しない） 「教科型」に加えて、「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせる（将来は「合教科・科目型」「総合型」のみとする） 多くの大学で活用できるよう広範囲の難易度（選抜性の高い大学が活用できる水準の高難易度の出題含む） 英語は「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を総合的に評価（民間の資格・検定試験も活用） 大学および受験者に対し、段階別表示による成績提供
解答方式	原則、多肢選択方式（記述式導入をめざす）	多肢選択方式だけでなく記述式を導入
作問 イメージ	全国学力・学習状況調査（A問題・B問題）の高校教育レベルの問題を想定	PISA型の問題を想定（知識・技能を活用し、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を表現するための力を評価）
実施スケジュール	2019（平成31）年度から実施 在学中に複数回の受検機会を提供（例えば年間2回程度。実施時期は夏～秋を基本とし、学校現場の意見を聴取しながら検討）	2020（平成32）年度から実施 年複数回実施（実施回数・時期は高校・大学関係者を含めて協議）

※中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」より作成

(注) 学力三要素…① 基礎的な知識および技能、② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、③ 主体的に学習に取り組む態度

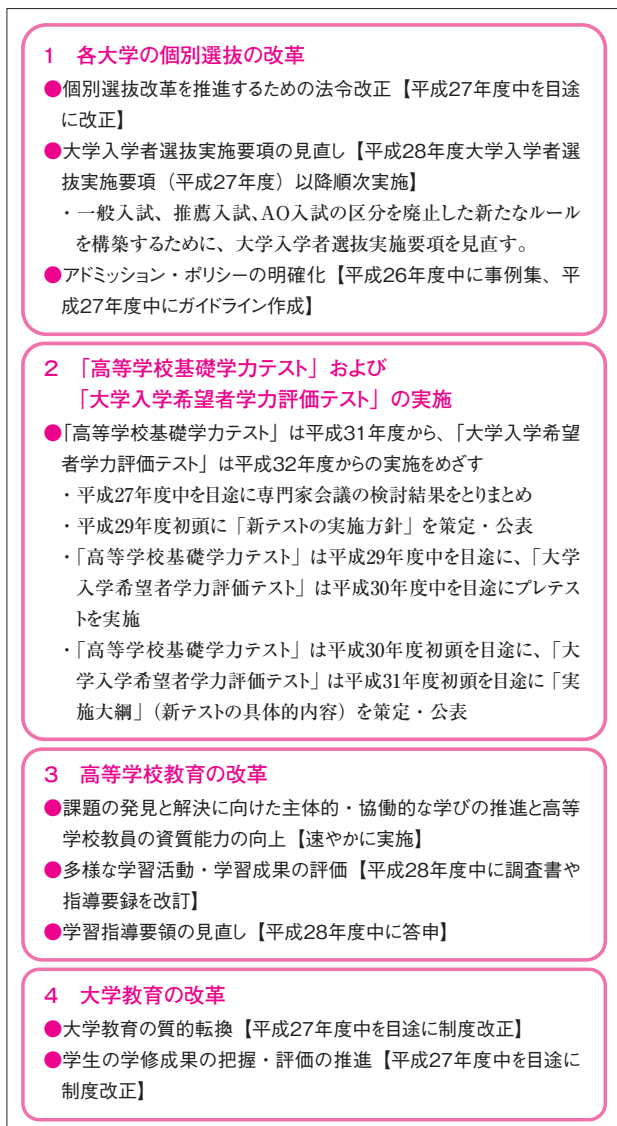
育や評価の在り方を抜本的に転換する必要があり、そのためには具体的な施策や改革スケジュールの明確化が必要であるとして、答申後に「高大接続改革実行プラン（仮称）」の策定と公表を求めていた。

高大接続改革に向けた工程表を公表

そして今年1月16日に「高大接続改革実行プラン」が公表された。＜図表2＞はその概要である。

具体的な施策として「各大学の個別選抜の改革」、「高等学校基礎学力テスト」および「大学入学希望者学力評価テスト」、「高等学校教育の改革」、「大学教育の改革」の4点が挙がっている。早いものとしては、平成26年度中に「個別選抜の改革」として、アドミッション・ポリシーに関する事例集が策定される予定だ。2つのテ

＜図表2＞高大接続改革実行プラン（概要）



※高大接続改革実行プラン（概要）より作成

トに関しては、平成27年度中を目途に専門家会議の検討結果をとりまとめるとした。

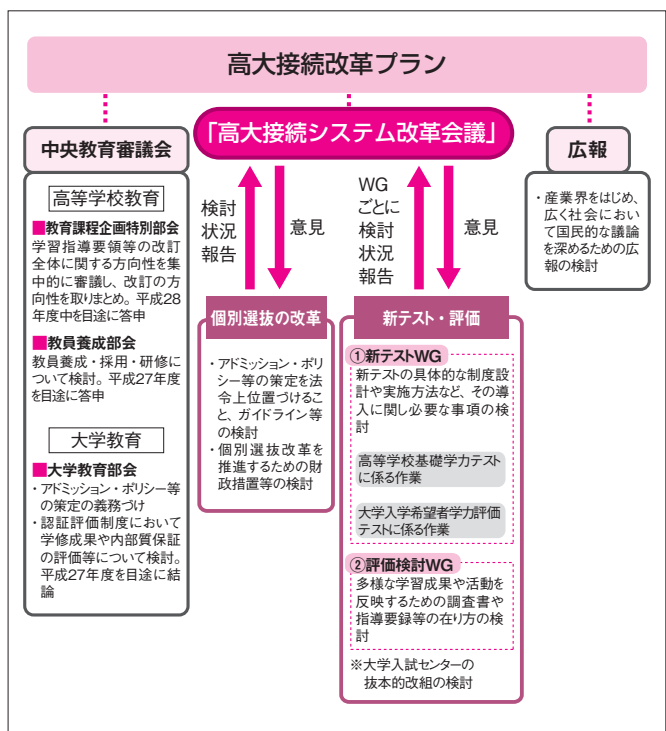
高大接続システム改革会議が始動

その専門家会議というのが、3月5日に始まった「高大接続システム改革会議」である。そこでは、高校教育改革、大学教育改革、個別選抜の改革、多様な学習成果・学習活動の評価、新テストの在り方について検討する。新テストについては、対象教科・科目、作問、CBT方式導入、試験の実施回数・時期、成績表示の在り方などを検討する。なお、座長は高大接続特別部会の部会長で、12月の答申を行った第7期中央教育審議会の会長の安西祐一郎氏である。安西氏は文部科学省顧問にも就任し、この改革を強力に進めていく予定だ。

第1回会議では、「高大接続改革に関する体制について（案）」＜図表3＞として、今後どのような体制で検討が進めていくのかが示された。それによると「高大接続システム改革会議」の下に、「新テストワーキンググループ」「評価検討ワーキンググループ」（ワーキンググループは非公開）を設け、検討を進める。現在のところ高大接続システム改革会議としては、中間まとめを夏頃に、年内に検討内容を公表する予定である。

（3月20日現在）

＜図表3＞高大接続改革に関する体制について（案）



※高大接続システム改革会議（第1回）資料より作成